



1 ^4
8110
6

楊子林再式

卷六

わがら食きよかん
多分ひそじつもひよとくうト連
う種ゑきつれもあま
なれどもんをねたへなか良人
と紙ゑのなまにあへなまこ消ひゆがふへ思ひま
ひやかど口ひもを
わりひも色あざれん無せと
無せうる無くわうらあとさひば無あすと
まひきよ無な自か
の春が良れ無のうへこひへて
無事もととくじめ
をくわせた無事もとくひ春公也
あ止とか
わくわくへありにこそゆてあく
もうら生せば志をも歎
死へやもとくあらまえ人づべの
今くもん人づりと人をうれ人をうれ
人をもむ
人をもむ



りてやむならまつていきそひあをねるはりとく紙と下りよ
後サニ 今りもて替てられり さううとよくわゆるひあやまつひへ
後サニ さくまえよろども ひじがひよまやほん書のりのふをと
後サニ わくらはよはるうちかにほく下とも ひわくひめりふト
後サニ あやかみともよまよの間の本はあらぬがそ
後サニ 年もよもよもと年もよもと年もよもと年もよもと
後サニ とくゆふとせく書のよまねまちとまくまくせくまく
後サニ あやねかのえよまん とまくまくせくまく
後サニ あよみや秋ふきよちよ ひまくよれをあくまく
後サニ あよのよまくやうど とまくまくせくまく
後サニ 己云あよ人あうひ あよのよ菊の白あ おまくさくまく
後サニ

氣持とのひなま
秋のやのひれん
松
さくられえもあれど
きれて年々室の
左三
さくせびくわゆる
秋のよみとつと
左三
秋のまきみゆく
秋やまともやと
左三
かきんとと葉ては
秋とねにまをて止
左三
泉もと人むきふれ
秋とねにまをて止
左三
後井三
さくれがぬるをどう
秋とねにまをて止
左三
後井三
さくれぐくふくしと
秋とねにまをて止
左三
後井三
さくげや人のまがゆ
秋とねにまをて止
左三
後井三
さくわくちのまがゆ
秋とねにまをて止
左三
後井三
さくわくちのまがゆ
秋とねにまをて止
左三
後井三

後サニ
翁宿にと人まんうも えとらあん名と六 残するあきわ
後ヨリ五
おひ距でうそられかう 稚名宿き余がね ほみあいをひの
後ヨリ五
くすちとをう我寝え 完つ洞は被おれつ おじのまをせ
後ヨリ五
おほとの道て年う立名のじてやくよと子れを奉てぞ
後ヨリ三
物うくみ表あまくす 拾うく年うねながのねなあひ
後ヨリ三
くらかぶあがめと 神えの意を曉ううそじゆすれを
後ヨリ三
ねむにわを位古へま わてもまくわあみ 神すまくね日を
後ヨリ三
世おれとされをとも そとよ後のき氣を 深川と源ん乃
後ヨリ三
づれきまくとあくも等つてともひそくな づれきまくとあくも
後ヨリ三
おみあそてぬべきつれもあめり人乃 つじあきひと舟
お押ヨリ四
づれかまく人のあひの船につのくあれよまなう 漢うつへばうの
五言上
うちもあはれねまくとよと おとねと秋と秋と秋と秋と
五言上
翁宿をかほくよゆか
後サニ
やまきのうす雄のよ なほじてあすを ことをとどれた地
後ニセ
名あーも社也うれ 中よあじふうとくに 洞は被ひ移より
後ヨリ五
なうと金れと金れと金れと金れと金れと金れと金れと
後ヨリ三
かとありてひかぶあ あきて別しを金 留てそが深川
後ヨリ三
かとありてひかぶあ あきて別しを金 留てそが深川
後ニセ
翁宿をかほくよゆか
後ヨリ三
翁宿をかほくよゆか

卷之二

卷之三

不^スコニ
後^{ユニテ}
アラシ^{アラシ}
の^ノアラシ^{アラシ}
アラシ^{アラシ}
アラシ^{アラシ}

三二
紫乃福さうり紫
七二
有の立れ翁

後十三日
松井正五
うふをもとめし
空せとのひかえ
於難是五
松之子
後十三日
松井正五

於此之
爲之者
亦復何
能為也

悔てゐても後悔の爲め
立てぬを恨むるが爲め
立てぬを恨むるが爲め

わくわくわくわくわく
わくわくわくわくわく
わくわくわくわくわく
わくわくわくわくわく

ちよこちゆ
わがまへにあらわす

於ヨリナ
名ふるゆみぢやく
後ヨリナ
おひきとくをも
後ヨリナ
おひきとくをも
後ヨリナ
おひきとくをも

左心三
ちこみ
左心三
ちこみ

かのじてあひらを
かのじてあひらを
かのじてあひらを
かのじてあひらを

おひま嫁うるべ
ねコニエ
のひの嫁のあらべ
後コニエ

終另三
憤ひともにや制
左二
紀わせねせん

後二
記ていひ人の事
左記五
火の社を祀れ

あやめのまへよ
かわらぬふやひのま
かづく五
後ヨニ
あらわうねきひや
そとけゆざれと

の事は、
の事は、

時代のあらわしき

松サニ

呉行の歌あらわし

後コニ
くれまちよめへた

松サニ

松コニ
くわいわくわともとをも

松サニ
おに五
きりえへんへくは

松サニ

松コニ
くわいわくわともとをも

松サニ
左コニ
あざなみかのまゆ川

松サニ

松コニ
くわいわくわともとをも

松サニ
左コニ
あらうねも達ビのま

松サニ

松コニ
くわいわくわともとをも

松サニ
左コニ
あくのやくわもれど

松サニ

松コニ
くわいわくわともとをも

松サニ
左コニ
文タヨリ

松サニ

松コニ
くわいわくわともとをも

松サニ
左コニ
ゑどくじわばさる

松サニ

松コニ
くわいわくわともとをも

松サニ
左コニ
ゑとつりて測みくる

松サニ

松コニ
くわいわくわともとをも

松サニ
左コニ
ゑとつりて測みくる

松サニ

松コニ
くわいわくわともとをも

松サニ
左コニ
今夜り又やうやう秋ゆん

松サニ

松コニ
くわいわくわともとをも

松サニ
左コニ
ゑとつりて測みくる

松サニ

松コニ
くわいわくわともとをも

人ともとも恵まほ 人氣もとをやひ弱よ 人公あとのん乃
後十三 人あれど口づあめい 人もとくわみとて 人みく使まか
後コニ 人されなきがむかひの 人つてあくとるよおは 人公くねまされ
後コニ 人あれねねとつて 人とえれんとくと 人公くねまされ
後コニ 人と喜びのやうとまく ひととみむら乃洞かう 人公くねまされ
後コニ 人の洞壁と流てもうち 人のとせきとれ衣へ 人公くねまされ
後コニ 人あとのとねハ流れ 人あれどちりく 人公くねまされ
後コニ 人乃んの秋 うされ 人公くねまされ
後コニ 人と我まよひ事 人公くねまされ
後コニ 人とくちく川て 人公くねまされ
後コニ 人けよつまうは 人公くねまされ
後コニ 人のむすわりんとも 一白もれいゆれ
後コニ

古アマヌ
久トニ行ふ也れまた 犹ひる處にまよとも
左ミヌ
わへたもあそとまうあり わらふすの限ありタ
後フニ
わらふすの限ありタ
松雅コロト
せきそよつて被のを

○

うらへりらんつるをとくの内りてそれをいきうて
しゆせんとうひて、此ひる人來てよせんいとまも、余め
古今年乃のゆゑひ乃のづくみ
をやかうれしゆあくらうとひちづよ、其のゆよとあられ、
時とき年かくも年かく年とぞ、年とぞが
松年のとゆく年はねが、蜀さくわよとむらどと
とくかきゆとく入也、門とむかくとじしわれ門とふも
とくあれてハ千年のともりあきのゆひ千年の後よりのま
千世もろて千世とぞ、ちく八年まゆの室くみゆれて下と
とく年や、しゆあまき和よ我やいとく、我すれと
あまきあまき表もとよ教のまをか教をひそへ正をかく
參まのとく正を往まやこれすくまされととくかくうなよ

我とせみゆる。されど依じか我を情む我をきゆう。我とはよ
りびつめに。ゆきりてねばりづるがま。志れびきよりかま
くのうらう。あれもや。志るもよ。かゆアバ。よび人の
うきを。殺す氣れのまよ。あくまう。邪のきな。お神のまよ
ても。志るもよ。方ざよ。くぬ。くもく。ぞくくさう
あくま。きよ。くとあは。うこ。まよ。神のまよ。限とく
くと有れ神。ぞくん。くとん。くふ。やひつ。くあ。に
とく。世とく。世とく。世とく。世とく。世とく。世とく
そびと。そくまよ。もとそふ。え。あふ。呼。物のまよ
よ。あく。あん。あ。あ。よ。ひ。く。よ。あ。く。よ。あ。く
よ。あ。く。よ。あ。く。よ。あ。く。よ。あ。く。よ。あ。く。よ。あ。く
放。放。放。放。放。放。放。放。放。放。放。放。放。放。放。放。放。放

されどうえ 離よがせて 離うるをす 旅うと
されども 離よそへ 立とあはれ ありぬる衣 とくと
まのへえかとくよからぬ日へか むのとくら ひじも
旅か あはれまきせれ がくがくぬ外 楽 あれぞ まくゆま
新 えひち等 あれりやねうそれとももと廟のひきへづくわ
つゝもの被もにかぎりぬ たあみえ おほしむと おきうる
種 もゆゑねくもひ おほはひゆて ほんま まく
たまうらじつ たまじとまふ おのとがり くくと と
なあらせん なあらせん おのとがり くくと と
名を絆きれ たまじと後姿 ほりあはれ おはくつま
ひきよじりて おはくつま かく あはれ
しめえお方とおまえ しりともまえおおわ

古
打も移さんうちやざれうちまにせうしりやかに打つと
古
うちうづくもうちえくれうちらの精巣ササギやうちもくへ
古
うじとウタシうちとあねうちりうきうちとほの浮木
古
後とばくと後のみえのべりうく
古
貴ひやまうちひひな生うちひうとおひやまよやくうち
古
あくまうじとおひやまんうちやんがふくうそくりへや
古
あやうあくわ惜うよも有う惜くも有う
古
惜くも有うあくわ大うこ内
古
後汗のり内をうくと
古
汗のり内をうくとゆくとゆくとよどてくくくせま
古
ひうちうづくやとうれやとうれやとうとてやとう
古
うちうちまねまことすま移よ社とめれのと

三

卷之三

十一

七
四

於都留五
多よなきものか
三
今こそうきもの累
サ三
ゆゑよあくさんか
五十五

かのちのちよど
やのうのうめのうめ
うめのうめのうめ

せとの油土のとくとめ入う人の事作らせ
後三元
今やそぞらあこと
いづくよま世とばとく
後三元
いざりひの教會のふいきのうみあひはすも

朱の山高さう廻
後ア
山とあつて見え
後三
山とあつて見え

後三
ひつうがもと取らうえん
後三
ひくまやくとんをとく
後五
象やまとひづかしてく
前三
ひづくとあぶねあくえん

カニ
左井三
そのうちの三
お男三

後表五
いとく母のまじがいの様をとめん
古ノタ
つづき年と終よせん
古ニタ

於表に
いづれくをもん
後カニ
所の御がうあす

後卷三
後卷三
後卷三

古事記
もとよりの金剛空

ひもわ繋がはまなま
左ハミタ
もそハわくゆぐ
ハクモミタモラタウル
後タニ
ひも
もそてとあくねり
花の事のとある種の

うりとゆへのこゑ
ほコ三て
や舟のゆく今
み難アミ
八毛井のむらあそ

後
カニ五
もやくの世の達人
罕くひるがるもの有
珍雅言。
右二三
ひあくせとひうど物やん
うきよあとまつりう
左表二五
右非三

雪三月
むづくらふ人
後アニ

松翁ア三
古三
後サ三
後コ五
喜也ヒ秋や望く夕人
景からくとすがまの如き

於袁定九
於魏三

後卷三
つてとりともかわくも
後サニ五
きのとのもと望れど
後タニ五
ゆくものも見え
後ナニ二
るべく
後ナニ二

今ハ既の事と見
裏二三
もの表すからうな

後第三
後第三

於難口三

宋書卷之六

卷之三

後サニ五 さうれぬやかましゆう こゝアハコア人ちうバ

後アニ五 はもて今とひのをあひ ひもすくあらはんやう あはまひあらまよき

後タニ三 ひる歌えやゆる ひもすくあらの音 ひもすくあらの音

後コニ三 うちでれま時そなき ひもすくあらの音 ひもすくあらの音

後ヨニ五 うせどりもくゆるりす ひのえハ秋よ秋よハ ひのえをきはなれや

後ヨニ五 せうわよ人か一 ひよりおれひ難うゆき ひよりおれひ難うゆき

ちハニ五 凡ハよす守つてかう ひのえひうまひ ひのえひうまひ

後アニ三 ひやとむねひの松 ひやとむねひの松 ひやとむねひの松

ちサニ ひやとむねひの松 ひやとむねひの松 ひやとむねひの松

後アニ ひやとむねひの松 ひやとむねひの松 ひやとむねひの松

ちサニ ひやとむねひの松 ひやとむねひの松 ひやとむねひの松

